

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

Since 2013



Vol.75
11・12月号
2025.11.1 発行

10 周年からその先へ ずっと続く文化芸術



©日本コロムビア

LEO (箏)



林 正樹 (ピアノ)



U-zhaan (タブラ)

新たなる挑戦 ジャンルを超えて響き合う

== INDEX ==

Pick Up Artist

LEO 箏リサイタル

LEO (箏)、林 正樹 (ピアノ)、U-zhaan (タブラ)

さくらプラザ 自主事業レポート

さくらプラザオープンデー 2025 真夏のこども探検隊

連載

アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、
ちょっと詳しくなっちゃおう
vol.9 / 土屋 陽子さん

リレーインタビュー
横浜横断！地域連携コーディネーターに
今を聞いてみた

人は皆 背中で語る…見返戸塚人

本誌の二次元バーコードは Cookie を使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能は Cookie を無効にすることで、Cookie を用いた収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。



Web版





今年でさくらプラザ 3 度目のご出演となる**箏奏者・LEO**さんの公演を、2026 年 1 月 10 日（土）に開催いたします。昨年夏の公演からの一年間で経験した変化、今回共演するアーティストへの想い、そして音楽への姿勢などについて語っていただきました。

—昨年 8 月のさくらプラザ公演から約一年が経ちましたが、この一年で、ご自身や音楽に大きな変化などありましたでしょうか？

LEO(以下、**省略**)—ちょうどあの時期は、2025 年 7 月に発売した新しいアルバムを作り始めた頃でした。その制作を通じて、新しい出会いや、ジャンルの異なる音楽への挑戦がたくさんありました。自分の中では、いろいろ変化のあった年だったと感じています。制作・演奏活動ともに、充実した一年を過ごしました。

—さくらプラザでは今回で 3 度目のご出演となりますが、さくらプラザ公演の印象に残っているエピソードがあれば教えてください。

初めて出演したのは 2021 年で、当時はまだコロナの影響が残っていて観客数にも制限がありましたが、それでも沢山のお客様にお越しいただいた記憶があります。その時期、まだ本格的に活動を再開したばかりで、しかも地元・横浜での公演だったので、とても嬉しかったのを覚えています。昨年も満員のお客様にご来場いただきましたし、ホールの雰囲気もとても好きで、箏と相性がいい音が出るホールなんですね。僕にとって安心感のあるホールになりつつあります。

—横浜市出身ということで横浜での思い出があれば教えてください。

ハングリータイガーのハンバーグが本当に恋しいですね。あれに勝るものにまだ出会えていません。
あとは、海外の仕事から船で戻ってきたときに、みなとみらいの景色を見て、“帰ってきたな ”と感じたのも思い出深いです。生まれ育った場所なので、地元に戻ってくると心が落ち着きますね。

—今回の共演者の林正樹さん、U-zhaan (ユザーン) さんおふたりについて、共演をするきっかけや印象に残っているエピソードがあれば教えてください。林正樹さんとは今年度 10 公演くらい一緒にツアーを回っていきます。即興のやりとりも自然にできる信頼関係ができてきました。毎回、同じ曲を演奏していても全然違うアレンジやアイデアが出てきて、構成がまるごと変わるような面白さもあります。

U-zhaan さんは、僕がずっとファンで今回のアルバムで初めてご一緒に、その流れでライブでも共演することになりました。おふたりとも僕の好きなアーティストですし、この 3 人のトリオでの演奏は、実はさくらプラザが初めてなんです。

—お箏という楽器は伝統的なイメージが強いですが、現代的なアプローチをするときに意識していることはありますか？

古典も学びましたが、ここ 10 年くらいは、新しい奏法や表現を自然に探ってきました。
インスピレーションの源としては、もともと箏ではなく、ピアノ、ギター、打楽器、エレクトロニックなど、さまざまな音楽からこんな音が出せたら面白いなと考えて、それを箏で表現している感じですね。



photo by Yuka Yamaji

今回のアルバムの曲も、譜面に全部起こしているわけではなくて、即興性の高いものが多いです。クラシカルだった前回とは違って、今回は即興性を持つアーティストとの共演なので、全く新しい印象を受けていただけると嬉しいです。

—ご自身の音楽スタイルに影響を与えたアーティストはいらっしゃいますか？ またどんな影響を受けましたか？

沢山いますが、一番よく皆さんにお話しているのは坂本龍一さんです。坂本龍一さんは日本やアジアの音楽を世界に広げた偉大な存在です。もうひとり、僕自身曲をカバーしていますが、アルメニア人のジャズピアニストのティグラン・ハマシアンさんです。おふたりとも共通しているのが、いろんなジャンルの音楽を取り入れているところです。ティグラン・ハマシアンさんはアルメニアの伝統音楽やフォークソングであったり、親の影響で幼少期から聴いていたメタル・ロック、彼が勉強したジャズの技法を混ぜてその配合で彼独自の音楽ジャンルを作っています。伝統音楽をベースにして、彼を通して世界に広めている姿勢に、ものすごく影響を受けています。

—演奏活動をする上で、特に大切にしていることはありますか？

日々、いろいろなところで演奏させていただいていますが、常に「新鮮さとワクワク」を大切にしています。同じプログラムでも、何度聴いても新しい発見があるような演奏を目指しています。
僕は新しい音楽を取り入れるのも好きなんですが、それだけをやりすぎてしまうと置いてきぼりになられる方もいるでしょうし、アルバム制作では自分のエゴでやりたい事を詰め込みますが、ライブではそのバランスを大切にしながら、新しい音楽のワクワク感を届けたいです。そのバランス感覚は、常に意識していますね。

—今回の公演で特に注目してほしいポイントを教えてください。

注目していただきたいのは、やはり楽器編成ですね。ピアノは西洋、箏は日本、タブラは北インドという、全く異なる背景を持つ楽器が、想像以上にマッチするんです。アルバム制作時にも感じましたが、音色の一体感が出る楽器編成です。



ピアノと箏って、実は音の相性が難しくて、響きの豊かさに箏の繊細な音が埋もれてしまうこともあります。でも正樹さんは、民謡歌手の伊藤多喜雄さんのバンドでデビューしていたり、伊藤さん以外の方とも和楽器での繋がりがあり、その独特の間であったり、音色に対しての引き出しが豊富な方で、初共演の時から自然なアンサンブルができました。またタブラの U-zhaan さんが入ることで、より音の交わりで面白い音の世界が広がります。これはぜひ生で体感してほしいですね。



photo by Yuka Yamaji



—初めてお箏の演奏を聴く方に「ここを楽しんでみてほしい」というポイントを教えてください。

今回の公演は、いわゆる箏らしいソロ曲もありつつ、そこからデュオ、トリオと発展していく構成になっています。箏の音の余韻や夢さって、日本人が感じる美しさの一部だと思うんですね。その繊細な響きの面白さをぜひ感じていただきたいです。

さくらプラザはクラシック系の公演をやられることが多いとお聞きしていますが、今回はジャズ的な内容になると思います。即興も大きな魅力で、音楽の中で起こる駆け引きや掛け合いが生み出す、この日この時間にさくらプラザでしか感じられない空気感を、会場全体で一緒に味わってもらえたら嬉しいです。今回は即興を普段からしている共演者の方々なので、よりパワーアップしてお届けできると思います。

—今回の公演の見どころやお客様へのメッセージをお願いいたします。

今回の公演は、箏・ピアノ・タブラのトリオ編成では世界初ともいえる内容で、自分にとってもとても楽しみにしている公演です。

この 3 人だからこそ生まれる、即興の面白さ、人間味、意外性、そのすべてを音楽として一体感のある形で届けられたらと思っています。初めて箏を聴く方でも、きっと音楽って面白いと感じていただける内容です。そして、意外な見どころとして、正樹さんと U-zhaan さんとのトークの掛け合いも実はとても面白いんです。

これまでの箏へのイメージみたいなものとはまた別のひとつのエンターテインメントとして面白いものになる気がしているので、初めての方も何度か来ていただいている方も、大勢の方にお越しいただきたいなと思っています。

取材・構成／沼上 智子、一瀬 幸子



LEO (箏)

9 歳より箏を始め、カーティス・パターソン、沢井一恵の両氏に師事。16 歳でくまもと全国邦楽コンクールにて史上最年少・最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。一躍脚光を浴び、その後東京藝術大学に入学。「情熱大陸」「題名のない音楽会」「徹子の部屋」など多くのメディアに出演。セバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、沖澤のどか、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などと共演。

鈴木健人指揮・読売日本交響楽団との共演で、藤倉大委嘱新作「争協奏曲」を 2021 年に世界初演。2024 年にはヨーロッパに招聘され同作品をウィーン・コンツェルトハウス、スロヴェキア・フィルハーモニーでも好演を果たしている。

箏奏者として初めてブルーノート東京や、SUMMER SONIC にも異例の出演を果たすなど、箏の新たな可能性を広げる活動に注目と期待が寄せられている。

出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

公式 web サイト ▶ <https://leokonno.com/>

2026 年 1 月 10 日 (土) 14:00 開演

チケット好評発売中



林 正樹 (ピアノ)
Masaki Hayashi

自作曲を中心とするソロでの演奏や、生音でのアンサンブルなどのプロジェクトの他に、小野リサ、渡辺貞夫、菊地成礼、マレー飛鳥、徳澤青弦、藤本一馬、akiko、相川 曜、三宅純、椎名林檎ほか多岐に渡るアーティストとの演奏活動及びスタジオワークに参加している。映画「すばらしき世界」(監督:西川美和、主演:役所広司)ほか、数々の舞台、映画、CM 音楽を手掛ける。

公式 web サイト ▶ <https://c-a-s-net.co.jp/masaki/>



U-zhaan (タブラ)

北インドの打楽器タブラをオニンド・チャタルジー、ザキール・フセインの両氏に師事。2000 年から 2010 年まで ASA-CHANG & 巡礼に参加し、2011 年にはレイ・ハラカミとのコラボレーションアルバムを発表した。2025 年 7 月に坂本龍一、Cornelius、ハナレグミら 8 人のゲストと 1 曲ずつ共演したアルバム「Tabla Dhi, Tabla Dha」をリリース。

公式 web サイト ▶ <https://u-zhaan.com/>



公演 HP



前回の情報誌インタビュー HP

さくらプラザ オープンデー 2025 真夏のこども探検隊

2025年7月19日(土) 9:45 ~ 15:30



今年のオープンデーは「今と昔からワクワクする未来を見つけよう!!」をテーマに、伝統楽器の体験・鑑賞、紙芝居コンサートやボディペイント、プラネタリウムなど、「昔」から受け継がれてきた文化・芸術を「今（オープンデーで）」、親子で楽しく体験・鑑賞し「未来」はどうなっているのか!なんて考える1日をご用意いたしました。当日は延べ約2,300名の方にお越しいただき、大盛り上がり!今回は戸塚区のマスコットキャラクター「ウナシー」が遊びに来てくれたり、多くの企業や団体の皆様にご協力いただきながら、地域の皆様とともに「さくらプラザオープンデー」を開催することができました。そんなイベントの当日の様子をご紹介します。

0歳から大人まで!親子でたのしみ 鈴木 翼 あそび歌コンサート&劇団飛行船 マスクプレイミュージカル「赤ずきん」

ホール

今年のホール公演は二部構成で、前半はあそび歌作家の鈴木翼さんによるファミリーコンサート、後半には劇団飛行船による着ぐるみを用いたミュージカル「赤ずきん」と、盛りだくさんな舞台を多くの方にお楽しみいただきました。

鈴木 翼 (あそび歌作家) 劇団飛行船「赤ずきん」

ごろ〜ん☆わいわい プラネタリウム

ギャラリー

ギャラリーがプラネタリウムに大変身!ごろんとマットに寝ころび天井を見上げれば満天の星空がそこに。自分の生まれ月の星座や、地球を飛び出て土星や火星を見たり、参加した皆さんは興味津々でした。

宙先案内人 (星つむぎの村)
谷口 加奈子 (にっち)、高木 良輔 (りょっぴい)

日本伝統の楽器 お箏を知ってみよう!さわってみよう!聴いてみよう!

リハーサル室

0歳からお箏に触れるコーナー。プロの先生によるお箏についての説明やミニミニコンサートも楽しめ、参加した皆さんは大喜び。家族三代で大盛り上がりなんて感想も!

講師: 外山 香 (箏)

アイルランド伝統の楽器をみんなで奏でよう! ティンホイッスル体験ワークショップ 目をつむったらまるでアイルランド!?親子で聴くアイリッシュミュージックライブ

練習室1

講師: 矢島 絵里子 (ティンホイッスル、アイリッシュフルート)、岡 皆実 (ピアノ、アイリッシュブズーキ)

ティンホイッスルの体験とライブの二つのイベントを開催。ティンホイッスルは学校で習うリコーダーに少し似ている楽器で、練習したら上手に吹けました。ライブでは普段は目にしないアイルランドの伝統楽器の柔らかい音色を存分に楽しみました。

オーブン・ニク演奏

津軽三味線の演奏でオープンデーが始まるよ!

栗原さんによる津軽三味線の演奏と「Dr. キミー」、ゲストとして「ウナシー」の登場でオープンデーの1日がスタート!



かわいいボディペイントで夏の思い出づくり♪

練習室2

YUKIKO (Sunny-Sunny マタニティペイント&フェイスボディペイント)

楽器や星空、夏をテーマに13種の中から好きなデザインを選んで、ペイントしたらイベントに出発!

横浜マイスターが教える! 着物生地のカードケースづくり!

練習室3

水守 康治 (横浜マイスター/帯仕立職)

帯仕立ての技術をもつ、横浜マイスターに習いながら、着物生地を使って、自分だけのカードケースを作りました!

こどもも大人もいっしょに! 紙芝居屋の音楽コンサート♪

スタンディングラス前

松崎 夏美 (ソプラノ)

日本歌曲や童謡のほか、手遊び歌も交えた「紙芝居コンサート」!大人にとってはどこか懐かしいような、子どもにとっては新しい!紙芝居屋さんの路上ライブでした。

日本とスペインの伝統楽器二刀流! 津軽三味線とフラメンコギターのコンサート♪

練習室4

栗原 武啓 (津軽三味線奏者、フラメンコギタリスト)

2つの楽器の演奏と説明が各回で楽しめるイベント!目の前で演奏される迫力ある演奏はまさに「Live」、幅広い年代の方が楽しんでいました。

ファイナル演奏

ワクワクする未来は見つけられたかな? さいごはみんなと一緒に演奏して、またね!



オープンデーの最後は矢島さん、岡さんそしてワークショップに参加してくれた子どもたちによるティンホイッスルと伝統楽器による演奏で幕を閉じました。来年もまた来てね!



時空を超えたキャラクターを探そう! さくらプラザシールラリー

さくらプラザ共用部

オリジナルキャラクターの可愛さに皆さん大喜び!

4F 共有部の6か所に隠れている、過去と未来から来たキャラクターを探して台紙にシールを貼るゲーム!受付で台紙をもらって「さあ、スタート!」キャラクターを1カ所でも見つけられたら、協賛をいただいている宝製菓のお菓子をプレゼント!

さくらのメッセージ

地域の全7団体の子どもたちに事前にさくらの花びらの台紙を配布して「自分の夢・未来像」「戸塚の未来像」を書いてもらったよ、イベント当日も書けるコーナーだったので、壁一面が桜並木に!

宝製菓のお菓子をもらおう

戸塚区内にある企業【宝製菓株式会社】のご紹介コーナーでは、来年、創業80周年を迎えられるということもあり、周年記念ののぼり旗や、会社の歴史がわかる資料などを飾りました。シールラリーの景品として宝製菓のお菓子をプレゼントする企画もあり、皆さん大喜びでした!

特別展示 全体装飾

戸塚区内の子どものアートの教室「造形教室むむていあ」の皆さんによるオープンデーのテーマからイメージして創作した作品を展示しました!約5mの画用紙に各自がテーマに沿って個性豊かな作品をアクリル絵具で描いていただきました。階段には大きなウナシーが復活!!皆さん一緒に写真を撮るのを楽しんでいました。

Dr. キミー、ウナシーイベントの出演者・講師の方々、そしてスタッフ7で集合写真を撮りました!



毎年恒例のさくらプラザオープンデー! 8月31日の開館にちなんで行っている親子向けイベントです。毎年、「どういったテーマにしたら」、「どんなイベントをご用意したら」、皆様に楽しく、文化芸術をより身近に感じていただけるか、試行錯誤しております。これからも「まちのアートステーション」として発信し続けてまいります。多くの方にご来場いただき誠にありがとうございました。

アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう！

土屋 陽子

★★★★★

Vol.9

★★★★★

静寂と狂気——エミリ・ディキンソンとエドガー・アラン・ポー

横浜市は世界の8つの地域と「姉妹・友好都市」の提携をしています。その最も古い提携先はアメリカのサンディエゴ市です。私たちの身近には、アメリカ発祥のものがたくさんあります。例えば携帯電話やYouTube、ハンバーガーやコーラ、野球やバスケットボール、ジーンズやTシャツもアメリカ発祥です。加えて、アメリカは音楽や文学といった文化芸術にもたくさんの魅力があります。そこで本連載を「アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう！」と題し、音楽と教育を専門とする小田直弥さんと、アメリカ文学を専門とする土屋陽子さんの2名でお届けします。

先日（2025年10月17日）戸塚区文化センターで開催された、名曲サロンシリーズ Vol.43「アメリカのミュージカルと歌曲の魅力」のプログラムのメインは、アメリカの女性詩人エミリ・ディキンソン（1830-1886）の詩に作曲された歌曲の演奏でした。ディキンソンは、無名のまま人生を終えるものの、没後に1000を超える自作詩が見つかり、今ではアメリカで最も優れた詩人の一人に数えられています。今日、彼女の詩は世界各国で翻訳され、多くの人々に読まれていますし、「風変わり」だったといわれる彼女の生涯も映画化され、人々の共感を得ています。彼女と同じように、死後その作品が世界各国で翻訳され、今もなお多くの人々に読まれており、また、その「数奇な」生涯がくり返し映画化され、多方面に影響を与えているアメリカ人作家がもう一人います。それが、エドガー・アラン・ポー（1809-1849）です。

エミリ・ディキンソンとエドガー・アラン・ポーは、一見、対照的な詩の世界を築いています。ディキンソンは、マサチューセッツ州の小さな町で過ごし、外界との接触を極力避けた詩人でした。ポーは、マサチューセッツ州のボストンに生まれますが、両親を早くに亡くし幼少期の一時期をロンドンで過ごしますが、帰国後ヴァージニア大学に進学するも賭博、大酒が原因で退学し、その後波乱万丈の人生をおくっています。ディキンソンの詩は、簡潔で断片的な言葉の中に、鋭い観察眼と、死や魂、自然への深い洞察を含む一方、ポーは短編小説や詩において、狂気や恐怖、美と死の交錯する世界を描いています。ポーというと、「推理小説の始祖」だとか、「江戸川乱歩にも影響を与えたゴシック小説家」といったイメージが強いですが、詩も数多く残しており、代表詩である「大鴉（おおがらす）（The Raven, 1845）」は、失われた恋人への執着と絶望を、神秘的なイメージで描出しています。ディキンソンの詩が彼女の静かな孤独をミニマルな形式で抽象的に詠うのに対し、ポーの詩は彼の内的狂気をドラマティックな構成で詠っているといえるでしょう。しかし、異なるように見え、両者は「死」や「内面の深淵」に鋭く切り込む点で、どこか共鳴し合っているところがあり、どちらもアメリカ詩の世界に、「死」の詩学を確立した詩人として評価されています。また、彼らの詩は、いずれもア

メリカ歌曲の世界で数多く作曲家に取り上げられており、詩の音楽的な魅力や深い情感が再解釈されてきたという共通点もあります。ディキンソンの詩は、その静寂で内省的なリズムゆえ、20世紀以降多くの作曲家によって歌曲化されています。一方、ポーの詩はその劇的で幻想的な語調ゆえに、歌曲のみならず、現代音楽、さらにはロックやメタルに至るまで幅広いジャンルで作曲されています。彼らの詩は読む文学であると同時に「歌われる文学」として、時代を超えて受容されているのです。二人のもう一つの興味深い共通点として、それぞれの特異な人生がその後映画化され、現代においても人々の関心を得ているという点が挙げられます。2016年に公開されたディキンソンの伝記映画『静かなる情熱（A Quiet Passion）』は、ディキンソンの内面的世界と孤独を、彼女の知的で鋭い言葉と、病や死に対する深い洞察をもって描き、多くの観客を魅了しました。ポーについては、複数のドキュメンタリーや伝記映画が作られています。2012年に公開されたフィクション映画『ザ・レイヴン（The Raven）』では、ポー自身が登場人物として登場し、狂気と創作の狭間を生きた人物として描かれています。ゴシック文学の象徴として彼の人生自体がくり返し語られ、時代を越えて人々の関心をひいているのです。詩や物語と同様に、彼らの人生そのものが一種の文学作品のように受容されているといえるでしょう。

静寂と狂気—異なるイメージを持つディキンソンとポーですが、共に19世紀のアメリカを生き、それぞれの言葉をもって、現代にもなお魅力を持つ存在として人々に受け入れられているのです。



土屋 陽子

弘前大学教育学部准教授（英語教育講座）専門分野は近代アメリカ文学文化。特に19-20世紀転換期のアメリカ自然主義文学を中心に研究している。単著に『ドライサーの描いた女性と自然—消費社会下に創られた理想女性像』（2025 現代図書）。著書に『路と異界の英語圏文学』（大阪図書出版）（共著）、訳書に『病のアンソロジー』（平凡社ライブラリー）（共訳）など。



リレーインタビュー 横浜横断！地域連携コーディネーターに今を聞いてみた



第10回
つる おか めぐみ
鶴岡 恵さん



Instagram アカウント：@crane.hill_blessing)



このコラムでは横浜市18区で地域の課題解決のために、コーディネーターとして「地域と人と組織」をつなぐ橋渡し役をしている方たちにインタビューを行います。

—ご自身の活動に関して伺わせてください。
童謡唱歌の普及活動として「ももたらう」というアンサンブルグループを組み、声楽の活動をしつつ、その他に合唱団や、学校などで合唱指導をしています。

—鶴岡様が合唱を通して人とひとをつなげるのに、どのような役割をされているか伺わせてください。

合唱団も団体によって目標は様々ですが、例えば年配の方が趣味でされる場合には仲間づくりの役割を担っていると思います。そして私自身はそこに参加している団員の皆さんが気軽に話しやすい場作りをしています。例えば、持病の話とか詐欺の電話がかかってきた話などほんとに身近な話です。そうすると、気軽に話することができる“空気”というのがコミュニケーションを活発にし、お互いに良い影響を与えるように思います。そうすると今度、そういう場に慣れている人が他のコミュニティで自然と空気を作る側になるように思います。つまり、私がつながりの場作りをすることで、その結果、コーディネーターの役割の人がどんどん世の中に増えていくイメージです。また他の例ですが、学校で教えているとシャイな子どもたちは、雑談では盛り上げられるのに、授業になると発言が消極的になる子が多いです。これはそういう世代ということもありますが、“空気を読んでいる”場合もあり、自分の気持ちや考えを言い出しやすい空気を作る為に、時に茶化し、時に厳しく、おぼちゃんの役割を行います。



—今後、人とひとを繋ぐ役割をできる方をどのように育てていくと良いと考えていますか。

合唱団は、年齢層が高いので（笑）、次世代を担う子どもたちに普及の意味も含めて合唱の魅力を伝えるに行っています。最近では学校に行くのに課題を抱えている子どもたちもいるので、大人になると“自分で決断できることが増え楽しいよ”と、大人になる魅力を伝えるとともに、大人には子どもたちに“大人って楽しいんだぞ！”ってしっかり言葉で伝えて欲しいと言っています。人とひとのつながりは楽しいことがたくさんあります。他人とすると面倒くさいことや大変なこと、嫌なこともちろんありますが、それは1割くらいで、残りの9割は楽しいことだと考えています。子どもたちにそのことに早く気が付いてもらえるよう、大人はそれを言葉にして伝えてください。伝えていくことが、コーディネーターの役割をする人が育てていくのではないでしょうか。

—今後、人とひとを繋ぐ役割はどのようになっていくとお考えでしょうか。

AIが急速に普及しているので、生活は豊かになっていくと思います。正解を素早く正確に教えてくれるのはAIだと考えています。ただ、人とひとのつながりはそこにいる人が生むものではないでしょうか？ AIもそのうち、それぞれに合わせた対応ができるようになるかもしれませんが、正解だけではない、雑談や余分なことは人間だからこそできると考えていて、私のような“場作り”をする「おぼちゃん」がいるとその関係性が急速に加速します。これはやっぱりおぼちゃんだと思うのです。こんな時代だからこそ、空気を読むのではなく、相手を尊重したうえで思ったことは声に出して伝えてください。それがとても大切だと思います。

人は皆
背中を語る…

ミカエリツカジン
見返戸塚人

戸塚の魅力あふれる方々をご紹介しますコーナーです。

—間借りカレーというスタイルの経緯、お店を開いたきっかけを教えてください。

普段は普通の会社員で、戸塚ですって働いています。もともとカレーが好きで、カレー巡りをしていたときに、東京の久大保に朝から行列ができる有名なお店があって、そこが本当に衝撃のおいしさで、「こんなカレーを作りたい！」と思いました。それでその足でスパイスを大量に買い込んで、家で毎日カレーを作り続け、いずれはキッチンカーなどでカレー屋をできたらと思っていました。

普段、ここは日曜日以外はバーの営業をしていて、私がもともと常連だったのと普段DJをやっていたこともあってイベントをやる時にカレーを出したら「日曜空いてからやってみない？」と声をかけてもらいそこから今の間借りカレーが始まりました。ちなみにお店の名前「moto curry」は、私のDJ活動のときの名前「DJ moto」から来ています。毎日作り続けた甲斐もあってだんだん形になり、ちょうどコロナが流行った時期に営業をスタートしました。コロナ禍だったのでゆっくり始めて、そこからじわじわとお客さまが来るようになって、もう5年くらいになります。普段は会社員、日曜だけカレー屋で、たまたまDJという感じで、動いている方が楽しいタイプですね。

—メニューについて教えてください。

定番メニューはバターチキンとポークビンダル。そこにプラスして旬の魚を使った魚のカレーという感じですね。お米は南インドでよく使われるバスマティライス。ばらっとしていて、スパイスの効いたカレーによく合うんです。副菜は「あれも食べたい、これも食べたい」と思ううちにどんどん増え

日曜日限定 間借りカレー屋
「moto curry」店主 moto さん
《好きをふんだんに詰め込んだ、
日曜の間借りカレー》



ポークビンダル(プレート)

て、お皿からはみ出すほどになってしまう、今ではルーを外付けでお出ししています。カレー巡りで学んだ味、自分の好きな味をたくさん重ねて、現在の形になりました。バターチキンは、自分が辛い物好きなこともあって、最初に出したときは少し辛く作りすぎてしまい、辛くて食べられないなんてこともあったので今はマイルドにして、辛さが苦手な方にも人気になっています。辛さはメニューごとに違うので、自分の好みに合わせて選んでください。迷ったときは、2種盛りや3種盛りもおすすめです。

—今後の目標について教えてください。

とにかく自分の好きなものを、好きなことを取り組んでいきたいという感じですね。あとはカレーの見た目大事にしている、今はSNSという広報手段があるので、まずはSNSを通して知ってもらって、戸塚の人だけでなく遠くから来てもらえるようなお店になれたらと思います。土曜ランチの営業も考えていて、カレー以外の料理にも挑戦して、客層を広げられたらと思っています。以前はおつまみやグリークヨーグルトを出していたこともありましたが、需要の波もあって試行錯誤中です。やっぱり、ゆくゆくは自分のお店を持つことが夢ですね。

—戸塚の皆さまへメッセージをお願いします。

私自身、人と関わることがもともと好きで、とにかく人を呼びたい、楽しいことをしたいという思いがあります。そういうこともあってDJをしたり、今はカレー屋もやったりしているのですが、ずっと過ごしてきた戸塚を盛り上げたいと思っているので戸塚の方はもちろん、戸塚以外の方も含めてぜひお越しいただければ嬉しいです。

顔見世



戸塚人に逢いに行こう！
moto curry

横浜市戸塚区吉田町116-1
第二安東ビル2F
営業時間：12:00～24:00
(毎週日曜限定)

Instagram アカウント：@moto_curry

※一度にご案内できるのは4組までとなります。お声がけいたしますので、店内で順番にお待ち下さい。



次号の戸塚人は・・・？

この後ろ姿から何処のどなただろうと想像してみてください。次号では見返りポーズでお顔を公開します！

主 催

鈴木 理恵子&若林 顕デュオコンサート

※第1部 ヴィヴァルディ「四季」 ※第2部

全席指定
 一 般 3,500円
 横浜市民 3,000円
 EX(補助席・後列側席) 2,000円
 学 生 1,500円

12/20(土)15:00開演 (14:30開場) 休憩あり

会場 ホール

若林 顕 (ピアノ)
 ※1部のみ出演

鈴木 理恵子 (ヴァイオリン)
 ※1部・2部出演

山本 千鶴 (第1ヴァイオリン) 吉成 とも子 (第2ヴァイオリン) 山田 百子 (第3ヴァイオリン) 谷口 亜美 (第4ヴァイオリン) 百武 由紀 (ヴィオラ) 大木 美穂子 (ヴィオラ) 刈田 雅治 (チェロ) 池松 宏 (コントラバス) 辻 文策 (チェンバロ)

らららん♪ドレミシリーズ Vol.30

0歳からのコンサートデビュー

～親子でたのしみ クリスマスコンサート～

全席自由
 各回 500円
 ※0歳から有料

12/25(木) ①10:30開演
 ②11:45開演

会場 リハーサル室

忍田 結梨 (フルート) 家中 紫音 (パーカッション) 高田 そよか (ピアノ)

LEO 箏リサイタル

全席指定
 一 般 3,500円
 横浜市民 3,000円
 EX(補助席・後列側席) 2,000円
 学 生 1,500円

2026年1/10(土) 14:00開演 休憩あり

会場 ホール

LEO (箏) 林 正樹 (ピアノ) U-zhaan (タブラ)

新春さくらプラザ寄席

笑う門には福来たる。新春初笑い!!

全席指定
 一 般 3,500円
 横浜市民 3,000円
 早 割 2,500円
 (早期購入割引)

10/15(水) 14:00～11/5(水) 21:00

2026年1/24(土) 13:30開演 (13:00開場)

会場 ホール

柳家小せん 墨気楼龍玉
 林家さく麿 入船亭扇里 遠峰あこ (アコーディオン演奏)

共 催 下記共催公演のチケットはさくらプラザでは窓口のみ取扱い

コンセル・アミティエ 音もだちコンサート Vol.5

クラシック音楽と童謡で紡ぐ楽しい時間♪

出演：阿世知 路子、北村 真紀子、吉府 充希子
 (リトミック&ナビゲーター、ピアノ、企画)

全席自由 各回 前売り 500円/当日 800円
 ※0歳から有料

11/20(木) ①10:30開演 ②11:45開演

会場 リハーサル室

参加無料

春の芸術祭

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに溺れる3日間

2026年
 2/19(木) ギャラリーのみ 13:00～17:00
 2/20(金) ギャラリーのみ 10:00～17:00
 2/21(土) ホール 14:00～16:00
 ギャラリー 10:00～16:00
 マルシェ 11:00～14:00

マルシェ出店
 ホール公演
 ギャラリー展示

詳細は1月上旬公開予定

音楽絵本『奇妙なマザーグースの話』

～「怖い」「奇妙」な歌で元気になる!?～

出演：波多野 睦美、西山 まりえ
 (メゾ・ソプラノ) (バロック・ハープ、ヴァージナル、麗曲)

全席指定
 大 人 3,500円
 横浜市民割引 3,000円
 U24 500円 (24歳以下)

12/21(日) 15:00開演 (14:30開場)

会場 ホール

春の芸術祭応援プログラム 名曲サロン シリーズ Vol.44

さくらプラザサポートアーティストによる アンサンブルコンサート

全席指定
 一 般 1,000円

電話予約開始
 12/11(木) 14:00～

2026年2/19(木)
 15:00開演 (14:30開場) 休憩あり

会場 ホール

大澤 理菜子 (ヴァイオリン) 早淵 綾香 (ヴァイオリン) 増山 頌子 (チェロ) 中山 結菜 (ピアノ)

戸塚区演奏家協会によるガラ・コンサート とつかのん Vol.11

～22人の音楽家が描く、戸塚発・未来へ響くハーモニー～

出演：戸塚区演奏家協会 アーティスト
 (ソプラノ、ヴァイオリン、チェロ、フルート、ピアノ)

全席自由 前売り 2,000円/当日 2,500円

主催：戸塚区演奏家協会 チケット発売開始
 2026年3/1(日)14:00開演 12/15(月)9:00～

会場 ホール

SAKURA さくら

Vol.75

11・12月号

2025.11.1発行

編集後記
 今回の号では7月に開催したオープンデーのレポートを掲載しており、世は年末ムードですが、ぜひ読んでお楽しみいただけたらと思います。来年も皆様楽しんでいただけるようにたくさんイベントをご用意してまいります。

(近藤)

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市区戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totsuka.hall-info.jp

https://totsuka.hall-info.jp

さくらプラザ 検索 ※通信料が発生します。

戸塚区民文化センター さくらプラザ